

読者の皆さまからの投稿欄

「あがの家」創生プロジェクトの意義

今年6月「地域活性」を旗印に、あがの地域の同志が集い、「あがの家・創生プロジェクト」を立ち上げようと意気込みました。以来、週に一度のペースで議論を重ね、当紙でもその経緯を掲載してきました。9月号で「あがの家、パンフレット制作中」と載せましたが、ここで問題が発生。それなりに良く出来たと思いきや、各自が持ち帰って社員や家族に見て貰った結果・・・「ダメ！」。さあどうするか？素人の発想では限界だ、プロのデザイナーに頼むしかない。振り出しに戻ってしまいました。



スギの樹木は60年以上の育成で、建築用材として活用できます。このサイクルと家の寿命がマッチすれば、資材は永遠に枯渇せず、CO₂の削減も。

「何のために？」「何を？」「誰に？」「いつ？」「何処？」「どの様に？」の質問。自分たちでは、それ

10、11月は取材と面談の繰り返しで遅々として前へ進みません。でもそのお陰で、原点に戻りその目的・理念の客観性を自覚できた様な気がします。が、このプロジェクト、果たして皆様の共感を得られるか？



川上・川下の人の交流と経済の循環、地域活性と理想の家づくりを目指して。

修理・修繕・改装・改築

今の家を仕立て直してより永くより快適に
気軽にお電話下さい

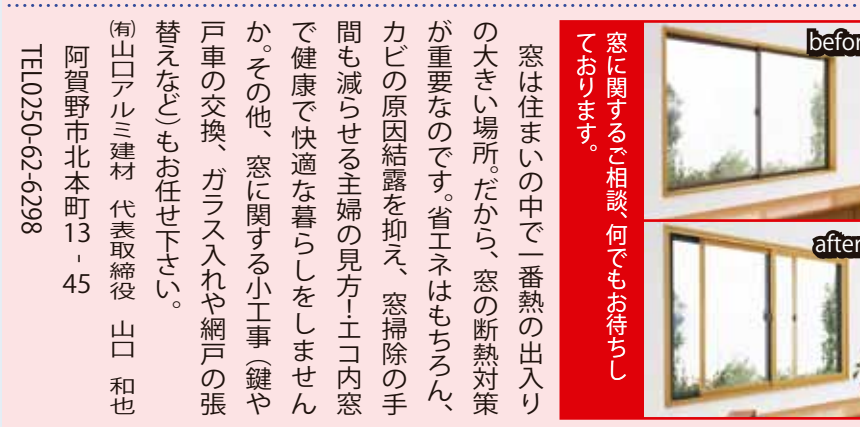
木造の家においては、新築は勿論、改築・改修・修繕であろう。工事の主要な部分は木工事が占められます。ところが、改築・改修工事における構造部分は、完全な設計図を描くことは出来ません。床・壁・天井を取り払わなければ、部材の種類・寸法、組み合わせ、劣化状況が分からないからです。となると、現物に対する対応力が必要となります。木材や木組に対して一番良く知っているのは、大工さんです。当社では2級建築士の資格を持つ大工担当者が6人です。その都度、現状の把握と最良の

方法を選んでいます(勿論、設計担当とも相談はしますが)。大工担当職は当社の顔であり、お客様と直接接する責任者ですから、追加・変更にも即時に対応できます。ややもすると、職人は不愛想で接しにくいと思うかもしれませんが、どんなことでも気楽に話しかけ相談してください。根は優しく親切ですから(ほんとは？)



職人とは、熟練した技術によって手作業でモノを作り出す人のこと。

冬の朝、窓辺が結露でべちゃべちゃ、なんてことはありませんか？これは室内の温かい空気が冷たい窓に触れることで空気中の水蒸気が水滴に変化して起きる現象です。結露はカビの原因になり、カビをエサとするダニの増殖にもつながります。また、それらの死がい、ぜんそくやアトピーなどの原因になり、健康に害を及ぼすとも言われています。



窓に関するご相談、何でもお待ちしております。

伝統構法を学ぶ

太古から自然と共生してきた日本人は、その暮らしの中から家づくりの技術をつくり上げてきた。それが「伝統構法」である。自然と共に呼吸する住まいから、独自の生活文化(茶・花・香など)を醸成させた。この家づくりの世界に比類のない伝統技術(大工・左官・屋根・建具・畳など)が無形文化遺産に登録されるよう、力を尽くそうではありませんか。

鉄骨・鉄筋コンクリート造などの建物は耐力が高いので、強い水平力がかかっても大きく変形しません。傾きが1/100(0.6度)のところでも揺れながら、地震エネルギーを消費します。これに対して木造軸組は、大きく傾きます。変形角1/15(3.8度)位までは急激に耐力を落とすことなく粘ります。大きく揺れて木材がめり込み、壁や部材にひび割れが発生します。一定の耐力は保持しながら、地震エネルギーを消費します。

木材自体は靱性が低く、鉄や鉄筋コンクリートに比べエネルギー吸収能力は高くありません。但し、この能力は物体が塑性変形(力を取り去っても元に戻らない変形)することで得られます。木造軸組は大きく変形することで、結果的にたくさん地震エネルギーを吸収しているのです。ある程度まで変形を許し、めり込みやひび割れを許して起こさせるといって考え方は。



先人の匠たちの感性と器用さが、日本独特の木造建築を進化させ今に受け継ぎます。

く揺れて木材がめり込み、壁や部材にひび割れが発生します。一定の耐力は保持しながら、地震エネルギーを消費します。



株式会社 研創 KENSO

読者の皆さまからの投稿欄

「あがの家」創生プロジェクトの意義

機能・価値がわかる要素別価格の透明性

家は人生で最高額の出費であるにも拘わらず、その価値の根拠は依然とブラックボックスに包まれています。工事内訳明細書は性能・品質を示す設計書です。この明細書は、項目・グレード・数量・単価が詳細に記載されていますから、その価値が明白です。尚且つ、途中変更があっても納得できます。「価値ある家」とは、要素別の金額バランスの良い家です。出来上がってから、「こんなつもりではなかった」という事例もあります。

「あがの家」はあくまでも「越後にいきる家」の地域モデルです。その基本である3本柱は「新潟県産材を80%以上使用」「なるべく金物を使わない木の特性を活かした木組の構造体」「各工種において職人の伝統の技を活かす」です。

当会ではその内容を明確にするために「越後にいきる家」の認定制度があります。5人以上の審査員がチェックシートを基に5段階評価で点数をつけます。審査方法は、第一段階「設計審査」、第二段階「現場審査」、各段階37のチェック項目、合格点は100点満点75点以上という厳しさです。このチェック項目において、設計コンセプトや意匠・デザインは審査員の主観的要素ですが、材料の選定や構造要素は科学的に明白です。

肉体的鍛錬法は、自分の「生かされている状態」に対して対応的であるべきです。ある時はいたわり、ある時は刺激を与える。そしてその状態を正確に見てとるには、「静寂で陰のない精神」を必要とします。



構造と一体となった自然の木の内観は最初が肝心、後では取り換え不可。



家の価値は、周りの環境・気候風土・敷地条件・地盤、等々の適応性が後々まで影響する。



優先順位は何と言っても、地盤を含めた構造体の安全性と技術力です。

「あがの家」創生プロジェクト

「あがの家」創生プロジェクトの意義

対症療法としての健康法

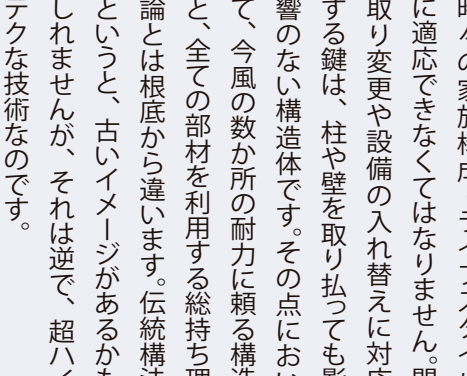
「こまめに動く」ここにこそ、健康と長寿の秘訣があるようにです。そしてそれは「人為」の部分における秘訣です。これに対して、「休息すること」は「天意」の部分における秘訣です。精神的には「呑気」であること。肉体的には体を「いたわる」こと。そしてこの「天意」と「人為」の間をよく「辺往来」すること。これこそが、健康長寿の秘訣のみならず、人生のあらゆる分野で成功をおさめるための一大秘訣と言えます。簡単に言えば「よく働き、よく休む」。この一言です。

「あがの家」創生プロジェクト

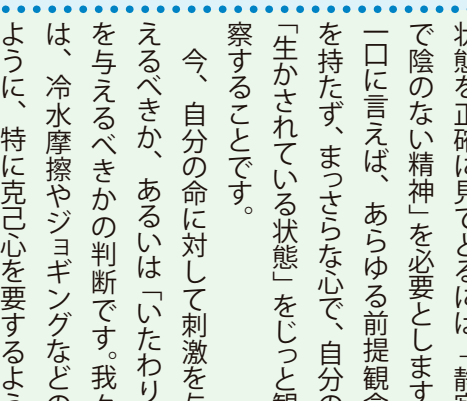
「あがの家」創生プロジェクトの意義

家の誕生物語を後世に語り継ぐ

この家は、あの山の木で、誰の手によって、どの様にして生まれたのか？その一連の物語を、自ら足を運び、目で見て、耳で聞き、手に触れて、後世でも家族と語り継ぐ。そんな住まいでありたい。



自ら選んだ丸太から生まれる木肌の美しさと香りは感動の一瞬です。



肉体的鍛錬法は、自分の「生かされている状態」に対して対応的であるべきです。ある時はいたわり、ある時は刺激を与える。そしてその状態を正確に見てとるには、「静寂で陰のない精神」を必要とします。